

国際地域文化 調査成果発表会

PROGRAM

開会のあいさつ	13:00
ラジオドラマ再発見 —かつて鳥取でつくられ、鳥取で聴かれたエンターテイメント—	13:05
“なにもない” 鳥取の魅力	13:45
鳥取における『言語の壁』	14:25
————— 休 憩 —————	
まちの看板 —湖山街道・若桜街道・鳥取南バイパス—	15:15
『吉岡の日記』を読む	15:55
閉会の挨拶	16:30

2019年1月26日(土)

開場 12:30 開会 13:00

とりぎん文化会館第1会議室

入場無料・来聴歓迎



1

13:05~

ラジオドラマ再発見 ーかつて鳥取でつくられ、鳥取で聴かれたエンターテインメントー

戦後、鳥取で市民が作り、市民が聴いたラジオドラマがありました。私たちは昭和27年10月に放送された『津黒城主の最後』を研究・再現の対象とし、ドラマにまつわる鳥取の歴史や、その舞台となった場所を調査しました。また、ラジオドラマが制作・聴取された時代背景について研究し、当時の人々がどのような想いでラジオドラマに関わっていたのかを考察しました。研究の成果を発表するとともに、学生による作品の再現も試みます。



ラジオドラマの録音風景

2

13:45~

“なにもない”鳥取の魅力

「まちづくり」グループは文献調査や鳥取へ移住してきた人々へのインタビュー調査を行いました。移住者にお話を伺うと、“なにもない”環境をポジティブに捉える方もいらっしゃるようになりました。そして、“なにもない”とはどういうことか? 「ポジティブに捉えるには特別な能力が必要なのか?」などを考えるために公開鼎談を行い、内側と外側両方の視点で鳥取を見つめ直し、魅力と課題を考察した結果を発表します。



移住者へのインタビュー風景

3

14:25~

鳥取における『言語の壁』

グローバル化に伴って生じる言語のトラブルに対して、鳥取ではどのような対応が行われているのでしょうか? 今年の国際交流班は「言語の壁」をテーマとして取り上げることにしました。鳥取に住む外国人へのインタビューやアンケート、国際観光データの分析、外国人を支援する団体への訪問、様々な場所でのフィールドワークを通じて調査を行いました。これらの調査結果を紹介するとともに解決策について検討します。



本通りでの多言語表記の調査

4

15:15~

まちの看板 ー湖山街道・若桜街道・鳥取南バイパスー

私たちは街のどこにでもあり、誰もが目にしたことのある看板について調査しました。若桜街道、湖山街道そして鳥取南バイパスの3つの道を実際に歩き、全ての看板を撮影することで得たデータを、看板の色やフォント、大きさなど12の視点で分析しました。この分析から分かった看板の特徴、傾向について発表します。また、分析結果相互の関係性やその要因、背景に何があるのかなどを検討し、見やすい看板の特徴についての考察も報告します。



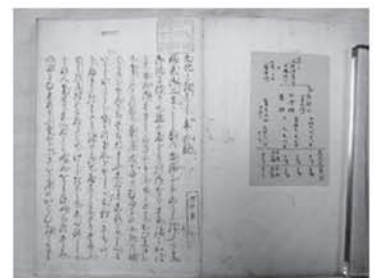
若桜街道調査終了後バレットとっとり2Fにて(6月1日)

5

15:55~

『吉岡の日記』を読む

今回、私たちは『吉岡の日記』について調査を行いました。この文書は、6代鳥取藩主・池田治道の娘(7代・斉邦の妹)である姫様姉妹が吉岡温泉へ湯治に向かう道中での様子や当地での出来事について記したものです。作者は鳥取藩士の驚見休明です。私たちは、この文書の内容を正確に理解するために改めて翻刻作業を行いました。その過程で得た知見をもとに、作中に込められた驚見の思いや、当時の温泉の様子などについて考察します。



『吉岡の日記』(鳥取県立図書館蔵)